

キャラクター名  
今泉 是清

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン ソラリス		ワークス	FHマーセナリーD	カヴァー	弁護士
	オプション		年齢	36	性別	男
覚醒	償い	衝動	恐怖	初期侵食率	35	%
出自	兄と妹	経験	汚点	邂逅	喪失	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	1		0			1	行動値	4
感覚	1		0			1	(非装備時)	4
精神	2		0			2	戦闘移動	9
社会	4	1	0			5	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		1
回避			知覚			意志	1		調達		1
運転:			芸術:			知識:			情報:メディア		2
運転:			芸術:			知識:			情報: FH		1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
[26] 垂純血/デミブリード	P	N		
かわむら ひとみ (仮名)	P 信頼	N 憎悪		
ながえ しんいち (仮名)	P 同情	N 敵愾心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 12    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
錯覚の香り	2	2	メジャー/リアクション	-	-	-	-	
効果: 判定+LvD								
絶対の恐怖	5	3	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: 攻撃力+Lv、装甲無視								
神の御言葉	5	4	メジャー	-	-	対決	リミット	
効果: 攻撃力+Lv×5、3回/1S								
風の渡し手	2	3	メジャー	-	Lv+1体	-	-	
効果: 対象をLv+1体に変更、1回/1S								
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果: C値-Lv								
スピードフォース	1	4	イニシアチブ	至近	自身	自動	ピュア	
効果: イニシアチブにメイン行動、Lv回/1S								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

複数のFHセルの顧問弁護士を担当しているFHマーセナリー。クライアントに勝利をもたらすことをモットーとし、そのためにはあらゆる手段を惜しまない。厭世的で皮肉屋。善悪や審議に関わらず法廷で繰り広げられる舌戦を至福とするエゴイスト。クライアントが悪辣に手を染めた極悪人であるほど弁護の難易度が上がり燃えるらしく、表舞台でそういった体裁を取り繕うのが苦手なFHとつるむのは必然であった。勝訴をぎ取る確率は100%に至らずとも、表の社会でFHセルメンバーが何のお咎めもなく暮らすために、彼の"口添え"があったという事例は10や20ではくだらしない。外部売と聞き違える彼の口車はレネゲイトウイルスによって後天的に獲得されたものである。彼を一介の弁護士として持て余しておくのはいささか非経済的であり、時たま彼の超常的な論陣は法廷の域を出た事件がいままさに発生している現場にて披露されることもある。目撃者を間引き、捏造された記憶を植え付けるその時だけ、彼の肩書は"顧問弁護士"から"FHマーセナリー"へと変わるのである。

数年前までは刑事事件の被疑者の弁護を行う法廷弁護士であり、法と正義の名のもとに被告にとって相応しい判決をもたらすために弁護を行っていた。クライアントの肩を持つべき立場でありながら、裁判官の真似事により自分の独断と偏見により導き出した求められるべき判決を手續り寄せる。若く歪んだ、思い上がりも甚だしいその正義はその有り様を問われることになる。請け負った依頼は至って平凡な痴話喧嘩。日常的に行われたいた肉体的・精神的束縛に耐えかねた女性が交際していた男性をナイフで刺したという傷害事件であった。親に甘やかされた官僚の倅が、女性の人権を踏みかじったのだから被告人は無罪を勝ち取るどころか相手側を訴え裁くべき。全身全霊で弁護に当たると決めた彼は今回の事件について徹底的に調査した。そしてら出てくる出てくる不祥事が。被害者と被告人、お似合いといつて差し支えないお互いがお互いを勝るとも劣らない悪辣が。今回の事件はこれまで二人が引き起こした事例に過ぎず、どちらかが天秤が傾いたなら、この事件から釈放されたなら他人に寄生し使い捨てる道楽を続けるだろう。結果としてこの事例に下された判決は中途半端なもので、被害者と被告人の双方が社会的に未来を奪われるという形で幕を閉じた。彼が思い描いたとおりに。不幸にも、これまで担当した依頼においては被害者や被告人のどちらかに大きな否があり、審判の天秤が傾くべきはどちらかが明らかであったのだろう。だが現実、人間は皆愚かで醜く卑劣である。そんな真実から目を逸らし、自分もまたそんな醜い人間の一人であると知らなかった彼は、なぜ自分がこの依頼の判決を痛く後悔しているかを理解できていない。

独善的な正義を実現するために弁護を執行する様は何とも歪んだ哲学を振りかざしていた。過去の判例によってこの思想が是正されたこと自体は喜ばしいのだが、この一件により彼の思想はまた別方向に捻じ曲がった。すべての人間が悪逆非道であるならば、もう正義の枷に囚われる必要もなく、いっそ悪として突き抜ける生き様の方が清々しい。各々が自己の利益を追求するエゴイストなのだから、自分もまた自分と自分のクライアントのため利益を追究しよう。劇的な過去も